特集 貴重な資源

夏です！暑い日にはあらためて水のありがたさを感じますね。水道の水は、飲み水はもちろんのこと、料理や洗濯など家庭用に使うほか、消火用の水、工場やレストランなど、さまざまなところで活躍しています。

ところで、水道の水はどのように作られて送られて来るのか、また、どのくらいの量が使われているのでしょうか？さあ、大切な水についてみなさんも一緒に調べてみましょう。

水のはなし

みなさんの使っている水の量は？

みなさんが普段なにげなく使っている水。まず、この水を毎日どのくらい使っているのか調べてみましょう。

平成18年度では、町民一人1日あたり約326ℓ、町全体では約12，250㎥を使ったことになります。

これは、一人1日あたり牛乳ビンで1，630本分、浴槽では1・63杯分になり、町全体では学校のプール30杯分になります。そして一年間では、一人あたり約119㎥、浴槽にすると595杯分にもなります。

水道の水・・・元はどこの水？

町が水道の供給を開始してからすでに40年余りたっています。現在は、町で作った水道水と県営水道から受け入れている水道水をみなさんの家庭や工場などに供給しています。

町で作った水は、荒川と釜伏川（風布川）、県営水道は利根川の水を汲み上げて水道の水を作っています。

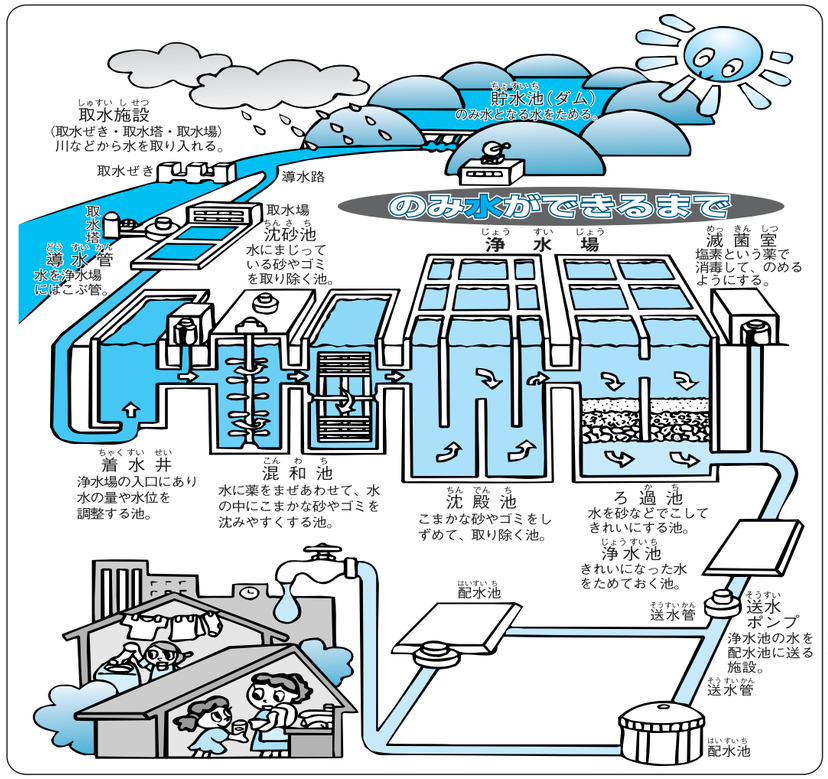
ところで、川の水っていくらでも汲み上げて使ってもいいのでしょうか？実は、川の水は水道や農業などさまざまな目的で下流の地域でも使われていることから、流域全体での配分を考えて、それぞれの事業体ごとに使える水の量が決められているのです。これを「水利権」と呼び、寄居町の水道では1日あたり6，984㎥までの水利権を持っています。しかし、1日平均で12，250㎥の水道を使っている寄居町では水量が足りないため、県営水道を受水するようになったのです。

水の旅。～川から蛇口まで～

川の水はポンプで汲み上げられ、導水管を通って「沈砂池」で砂やごみなどを沈めてから、浄水場の玄関「着水井」へ到着します。それから「混和池」でにごり成分を固める薬（凝集剤）を入れてかきまぜます。続いて、「沈殿池」で固まったにごり成分をゆっくりと沈めて汚れと水を分離します。ここまでくると、このまま飲めそうなくらい水に透明感が出てきます。

次に、水道用のろ過砂が入った「ろ過池」を通して、沈殿池で沈みきらなかった細かいにごり成分や細菌などを取り除きます。その後に、滅菌用の「塩素」を適量入れてできあがります。

こうしてできあがった水道水は、一旦「浄水池」にためられ、必要に応じて送水ポンプにより山の上にある配水池まで送られます。高い位置にある配水池から高低差による水圧を利用して、地下に埋められた「配水管」を通ってみなさんの家庭や学校、工場や病院、そして消火栓など、いろいろな場所へ送り届けられているのです。



一滴の水 大切に使いましょう。

このように、川から汲み上げられてきれいになった水。

その水源となる川の水は、遠い海まで行き蒸発して雲になり、雨や雪となって川に戻って来るわけですが、気まぐれな天候のおかげで長い間雨が降らずに水不足になってしまうことがあります。まだ寄居町に水道がなかった昭和35年3月。雨不足のため市街地にあった600余りの井戸のほとんどが水不足となりました。荒川へ洗濯に行く人や当時営業していた公衆浴場が時間営業となり、隣の小川町まで電車で入浴に行く人もでて、とうとう自衛隊の出動による給水活動が行われるということもありました。

現在、水道が生活用の水として利用されていますが、自然の水を水源にしていることに変わりありません。雨不足に強い水源をつくるため、上流域ではダムの建設が進められてきましたが、水は「無限にあるもの」ではなく、いつ水不足がおこるのかわからないのです。いざというときに一番効果を発揮するのはみなさんの「節水」なのです。

夏本番となり、水をたくさん使う時期になりましたが、日頃から「節水」を心がけるようお願いします。

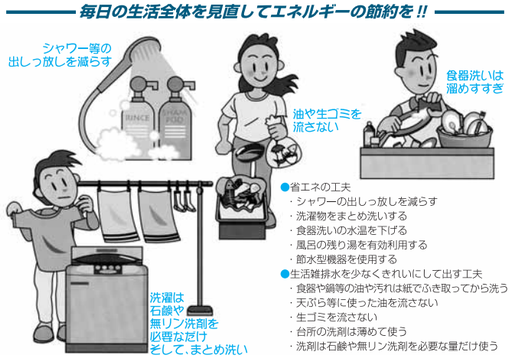
生命の源 ～貴重な資源 水～

いかがでしたか？水って、蛇口をひねれば当たり前のように出てきますが、空気と同じように、「無い」ということは考えられないほど大切な存在なのです。

この大切な水の確保や、水道の水をつくるためには、大変な時間とお金が必要です。そして、ダム建設によって、住居の移転など大きな影響を受けた方々がたくさんいます。

生命の源～貴重な資源～水を大切にお使いください。

問い合わせ／上下水道課（☎581－2121内線261・263）へ。



R100 広報よりい」は資源保護のため、古紙率100%の再生紙を使用しています。